



いざ札幌の地へ くりやまOH!!夢乱咲出陣式

第25回YOSAKOIソーラン祭りに出場する「くりやまOH!!夢乱咲(オオムラサキ)」の出陣式が6月9日、町スポーツセンターで行われました。18回目の参加となる今年のテーマは「弥栄想攬」。堀文彦代表は「一生懸命踊り、札幌の地で栗山町を精一杯アピールしてきます」とあいさつし、清水一徳教育次長は「精一杯踊ってきてください」と激励しました。この後、大勢の観衆の前で新曲「弥栄想攬」を披露。艶美火舞羅の太鼓と華麗な踊りの共演に大きな拍手が送られていました。



全校生徒が清掃活動 栗山高校

栗山高校(塩崎学校長:生徒数210人)が6月15日、総合学習の一環で町内の清掃活動を行いました。これは奉仕活動を通して「地域貢献」を体感することを目的としています。今年も昨年同様、全校生徒が参加。学年ごとに担当ルートを決め、軍手やごみ取り用の火ばさみ、ごみ袋を手に学校を出発し、紙類やビンなどを拾い集めながら、役場までの道のりを約1時間かけて清掃しました。生徒会長の川瀬萌蘭(3年生)さんは「これからも清掃活動を続けていきたいです」と話していました。



地域全体の担い手に 介護福祉学校で椿原町長が特別講義

北海道介護福祉学校(坪田弘校長)で6月6日、椿原紀昭町長を臨時講師とした特別講義が行われました。椿原町長は「福祉のまち栗山」と題して、情報共有・町民参加のまちづくりや福祉の取り組みについて、これまで実施してきた内容を交えて講義。受講した1年生42人は、メモを取りながら90分の講義を熱心に聴き入っていました。椿原町長は「地域に出て人を知り、人と交わり、福祉サービスの担い手だけではなく、地域全体を担う人材になってください」と締めくくりました。



日ごろの訓練の成果を披露 栗山消防団春季連合消防演習

南空知消防組合栗山消防団(永田英隆団長)の春季連合消防演習が6月11日、栗夢広場で行われました。演習には第1分団から第3分団までの団員と女性消防団員を合わせた104人と消防車両8台が参加。同組合管理者の椿原紀昭町長が「近年の多種多様な災害に対し、消防団員一人ひとりの資質向上が地域の安全安心へとつながります。今後さらなる活躍を期待します」とあいさつ。その後、分列行進やポンプ操法、女性消防団員による応急手当訓練などが実施されました。

若者世代が交流 4Hクラブと天使大学が農作業・農村体験

栗山町4Hクラブ員と天使大学学生による農作業・農村体験交流が、5月21日と22日の2日間行われました。若者世代の都市農村交流を促進させようと、クラブ員8人が大学内のサークルメンバー22人を受け入れ。学生たちは、町内視察、農作業体験などを行いました。クラブ会長の井澤さんは「交流する機会がないので良い経験になりました」と語ってくれました。参加した大沼七海さん(栄養学科1年)は「仕事を楽しそうにしている農業のイメージが変わりました」と話してくれました。



図書館の購入に役立てて 鈴木敏行さんが町に100万円寄付

中央1丁目の鈴木敏行さん(有限会社鈴木室内工業取締役会長)が5月26日、鈴木一久代表取締役と役場を訪れ100万円を寄付されました。自社が創立50周年を迎えることから寄付されたもので、鈴木さんは「栗山町の子どものために、図書などの購入に役立ててください」と話し、受け取った椿原紀昭町長は「ありがとうございます。子どもたちのために大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。



バス停をきれいに 清掃ボランティア

「ひまわりグループ」(田畑広子会長)の会員11人が5月21日、清掃ボランティアを行いました。この団体は毎年、春と秋の年2回清掃のボランティア事業を実施。今回も栗山中学校バス待合所をはじめ町内約30カ所のバス停留所で、3班に分かれて待合室の天井や壁のほこりを払い、掃き掃除や窓ガラスの拭き掃除、周辺の草刈りなどに汗を流しました。田畑会長は「きれいなバス停で皆さんに気持ちよく使ってもらいたいのので、これからも清掃活動を続けていきます」と話していました。



まちづくりをもっと身近に まちづくりトーク&ディスカッション

栗山のまちづくりを町と住民が一緒に考えるイベント「あなたがちょっと立ち寄るだけで栗山町の10年後が明るくなる展」が5月22日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。まちづくりトークでは、講師の内川亜紀さん(まちづくり株式会社)が「まちおこし」活動の事例を紹介した後、パネラーとともに「住みたい、住み続けたい町になるために必要なまちづくりとは?」をテーマにまちづくりディスカッションが行われ、事前に申し込みをした参加者は熱心に耳を傾けていました。